

IV. 課題から見える方向性

前章までで述べてきた、所沢図書館の現状や、統計・アンケート結果などから読み取れる課題を5つのカテゴリにまとめ、今後の方向性を明らかにします。

1. 利用促進のためのアプローチ

図書館には「本を借りるところ」という、固定化され限定化されたイメージがありますが、利用促進のためには、新たなイメージを加えていく必要があります。

そのためには、従来の図書等の貸出を含めた事業やサービス内容についての積極的なアピールを行うと同時に、図書館が「利用したい」「役に立つ」と思える施設であることが必要です。

2. 魅力ある図書館づくり

多くの市民が、資料・情報の充実を重要視しており、要望に応えられるような魅力的で信頼できる資料・情報等をそろえる必要があります。そのためには、従来の資料収集を基本とした上で、電子書籍等、今後さらに発展していくと思われる新技術の情報提供方法についても、常に検討・活用を進める姿勢が必要になります。また、収集した資料については、利用したい方に確実に提供するため、適正な管理が必要です。

施設・設備の面からは、誰もが安心して利用できる安全で快適な環境確保のための、バリアフリー化・防犯対策等も考慮した管理が必要です。

3. 格差のない良質なサービスの提供

本・分館は設置環境や規模も異なるため、地域の特性に合わせた運営が求められます。各館の運営に特色を出しながらも、サービスの提供内容に格差が生じないようにするため、**本館が統括・調整を図る必要があります。**

そして、生活圏が図書館から遠い市民に向けて、**市内全域にサービス網を整備していくことが必要**です。また、来館が困難な市民に対して利用を促す選択肢として、**非来館型サービスの開拓**など、新たな取り組みも必要となります。

4. 市民・地域との交流

年齢等を問わず、**すべての市民が「利用したい」図書館**であるよう、世代別のニーズをとらえ、それに応じたサービスを提供していく必要があります。

利用者をはじめ、図書館関連団体や地域団体、学校・保育園等関連施設、ボランティアなど、地域社会の様々なステークホルダーとの交流を広げていくことが、現実的なニーズと乖離せず、**市民が新たな地域文化を創出するための支援**を行うことに繋がります。

5. 地域・社会情勢を考慮した図書館運営

図書館は行政組織の一部であり、**市を取り巻く情勢の把握**については、**図書館の安定した運営を持続していくために欠くことはできません。**適切な資料の収集・提供など従来の図書館業務遂行の技量に加え、情勢を踏まえた企画立案などといった能力を備えることも、これからの図書館職員に求められる資質なのです。